【地域コミュニティの場とPR、アクセス道について】

E：　私は、土佐山に住んでいますが、昔のような活気が今ひとつないと感じています。周りを見てみると、昔はコミュニティの場として雑貨屋さんなど、地域の人が集まっているところがあり、「誰々さんのところの子供が生まれた」などの情報交換があったと思うんですが、今、逆に田舎のほうが、そういったコミュニティの場がない状況があり、何とか人の集まる場を作りたいということで始めたのが「わがまま屋」という店です。私の地域では、今「ゴトゴト石」（高知市土佐山地区にある落ちそうで落ちない大きな石）というスポットを売り出しており、そこのお土産の企画をさせてもらっています。

それともう１つは、物々交換所というものを構えていまして、皆さんが不要になった物を持ってきていただいて、そこにあるもので、いいなというものを取って帰ってもらう、というのをやり始めています。それも、一つは人に来てもらいたいというのが目的なんです。夏になると、川にたくさん人が来てくださいますので、おもてなしも少し考えたらいいんじゃないかということで、思い当たる取り組みはいろいろとやっています。

今の問題点は、一つはＰＲ活動です。予算というものも出ませんから、大々的にＰＲもできません。例えば県や市などでこういうところがありますよというようなことをＰＲしていただければありがたいと思います。

もう一つは、「『ゴトゴト石』は道が悪いから危ないので、運転に自信のない方は行かないほうがいいですよ。」と、インターネットには書かれたこともあり、アクセス道の整備はお金のかかることですが、検討していただけたらと思います。

今後、取り組みとしては、できれば若い人に土佐山に住んでもらいたい。そのために、自然というものも一つの魅力なんですが、やっぱり便利な地域でないといけない。便利さと自然というものの共存といったことも考えて取り組まなければいけないと思っています。

私としては、いろいろな思いがあって「わがまま屋」という名前にしたんですが、わがままに、みんなで悪乗りをしようよということもあり、ここに集まるみんながいろんなことを発言して、どんなふうに土佐山の地域がなっていくか、その中から形にできればいいなと思っています。

知事：　「ゴトゴト石」っていうのは、ゴトゴト揺れるけど、落ちないっていうんですね。だから受験生に人気だと。密かに政治家にも人気だと新聞に書いていました。

田舎のほうが、人が集まる場所がないというお話については、本当にそうだと思います。実際、県民世論調査でも地域でのネットワーク、支え合いの仕組みの力が落ちていると答えられる人が６割ぐらいに上っていて、これが３年前のアンケートですから、今やると、もっと多いんじゃないかと思います。

とにかく地域でのコミュニティを意図的、政策的に作るということを、私ども政策の一つの方向にして、その具体的な取り組みとして「あったかふれあいセンター」を作ろうとしています。「あったかふれあいセンター」では、地域の支え合い活動を推進するための体

制づくりなどを大いに加速をしていき、またそのサテライトを地域地域に作っていくという取り組みを進めようとしています。我々もこういう福祉のかたちで、人の集まる場所を作りたいということでやっているんですが、さらにいろんなかたちで前方展開していくことができればと考えています。今回お話を聞いて雑貨屋などというかたちで、人が集う場を作るという考え方もあるんですね。

E:　本来、みんなが生活の中で出会える場というもののほうが、長続きするような気がします。地域でお店ができると、そこが自然に出会いの場になり、情報交換の場になっていくと思います。とりあえず私の考えていることは人に来てもらいたい、この一つです。

知事：　お話にあったアクセス道の問題は、それこそ「ゴトゴト」１．５車線的整備など進めてまいります。恐縮ですが、少なくとも今、急いでできることでは、ＰＲ活動をしっかりしていくということだと思います。多分、我々として（地域での取り組みの）カバー率が足りないと思います。現在、いろんな形で統一的なツールを作って、どんどん情報発信できるようになってきたとは思っています。それから旅行エージェントのところにも観光素材集をどんどん置いて、いろんな商品作ってくれるようになったと思っていますが、もっと受けるであろう観光素材を見逃している所もあると思うので、そういう所も取り上げていきたいと思います。もう１つは、そういうかたちでのＰＲに加えて、地域支援員が引き続き一緒に取り組みを続けさせていただくようなかたちを取っていきたいと思っています。いろんなＴＰＯに応じた発信の仕方があると思います。

また地域のコミュニティづくりに今後もう一段力を入れないといけないと考えており、地域福祉活動計画などを作って、取り組みを強化していきたいと思っています。

さらに、防災の観点からも、今の時代コミュニティづくりが必要になってきているという思いがすごくあって、そういうことも全体として加味していく中で、各地域のコミュニティの核となる役割を担っておられる方々と、どう関わらせていただくか、またそれをどうＰＲできるかなどについて考えていく必要があると思っています。